

## ～こころの時代～

### 今、心理専門職に求められるものは

講師 井村 修（奈良大学）

○われわれは幸せになってきたか

私が子どもであった昭和 30 年代、テレビは普及し始めていたが、自動車やエアコンは一般の家庭にはなかった。半世紀以上を経た現在、物質的には豊かになったが、はたしてわれわれは幸せになったのだろうか。不登校、うつや自殺、虐待やいじめなどの問題からすると、必ずしもこころも豊かになったとは言えない。また、人口減少によるコミュニティの機能低下により、人々が互いに支えあう力が弱くなっている。今こそ、心理の専門職が社会から必要とされる時代となった。このような社会状況を背景にして、国家資格の公認心理師が 2017 年に法制化され、第一回の試験が 2018 年に実施された。現在では 5 万人を超える公認心理師が誕生している。

○心理専門職の社会的認知

臨床心理の専門性が、社会的に認知されるようになったのは、旧文部省が 1995 年度から始めたスクールカウンセラー事業であろう。「こころの問題で専門家に相談する」ということは、それまで一般的ではなかった。悩みを相談するのは親などの身近な人であり、教師や友人であった。しかし、多くの悩みや問題は、身近な人間関係から生じるものである。相談したくてもできないことも多くあっただろう。スクールカウンセラーが、「第三者性・外部性」を確保しながら、学校文化の中に浸透してきた意義は大きい。しかし、医療の中の専門職は、医師をはじめみな国家資格となっている。保険制度という枠組みの中では、国家資格

としての心理専門職が求められたのだ。

○「公認心理師」と「臨床心理士」

それでは、公認心理師と臨床心理士では、何が異なり、どのような特徴がそれぞれにあるのだろうか。形式的には、国家資格と民間資格、試験制度の違い、更新なしと更新ありなどがあげられるが、本質的な差異はあるのだろうか。柱となる業務はそれぞれ 4 つあり、アセスメント、当事者および関係者への心理的支援は共通であり、4 番目が公認心理師では「こころの健康に関する啓発活動」であり、臨床心理士では「研究活動を通じたスキルアップ」となっている。しかし、公認心理師も資質の向上は、第 43 条で定められており、臨床心理士だけに求められるものでもない。公認心理師には、秘密保持と医師の指示の義務を負い、違反すると罰則を受けなければならない。しかし、臨床心理士においても、秘密保持と医師との連携は当然のことであったはずだ。ただ法律として明文化されていなかっただけではないか。このように考えてみると、両者の差異はますます不鮮明になる。

カリキュラムの面では、公認心理師が外部実習と多職種との連携、臨床心理士は内部実習と個別面接力の重視のような差異がうかがわれる。公認心理師では、医療機関での実習を必須としており、チーム医療の中での心理専門職が求められている。一方、臨床心理士では学内の相談施設での実習が必要であり、陪席だけでなく個別事例を担当することになる。外部実習では見学が中心となり、

個別の事例を担当することは難しいであろう。医師免許を持たない医学生が、患者の手術ができないのと同様である。そうすると、臨床心理士の学内施設での実習も問題ありとの見方もできるが、スーパービジョンやカンファレンスなどの指導体制を整備し、大学院生が個別の事例を担当できる工夫を行っている。教員が指導に積極的に関わり、最終的には大学が責任を持つことが、学内実習の質とリスクの回避を担保していると言える。しかし学内実習だけでは、多職種連携は学ぶことはできない。両資格は共通の部分もあるが、異なる特色もあるようだ。

#### ○心理専門職に必要な基本的態度

公認心理師であれ、臨床心理士であれ、実務に着けば要支援者を引き受けることになる。連携は必要に応じ行わねばならないが、支援する側に個人を支援する基盤がなければ、連携の効果も絵空事で終わる危険性がある。つまり、心理専門職としてのアセスメント能力、心理的支援に必要な技術と理論を身につけることが重要である。それらに加えて事例として引き受ける責任性と覚悟を、私は心理専門職に必要な基本的態度と指摘しておきたい。基本的態度には、要支援者をリスペクトし、かれらの力を信じ、希望の光を見出そうとする態度も含まれる。理論や技術は、ある程度教育や訓練により達成可能である。しかし、心理専門職としての基本的態度は、テキストを丸暗記したとしても、容易に身につくものでない。おそらく、大学院時代に体験した事例を通して、われわれは身につけてきたのではないだろうか。ひとりのクライアントを任せ、面接や心理テストを実施し、レポートを書き、ケースカンファレンスでの発表やスーパービジョンを受ける中で、心理専門職としての基本的態度は育てられたように思われる。

公認心理師の養成が始まり、臨床心理士の養成をやめる大学が頻出するのではないかと、あるいは臨床心理士試験の受験者が激減するのではと思っ

ていた。いくつかの大学は臨床心理士の養成をやめ、受験者もやや減少した。しかし、私が危惧したほどには、養成校も受験者も減少していない。心理専門職の基本的態度の涵養は、学内相談施設における実習に負うところ大との共通認識があり、臨床心理士養成校の減少に歯止めがかかっていると推測される。今のところ私の心配は、杞憂であったようだ。

#### ○今、心理専門職に求められるものは

いくら国家資格ができて、国民から支持され、活用されなければ意味がない。そのためには何が必要であろうか。高いアセスメントの能力、当事者や関係者への有効な心理的支援の技術が求められるのは当然である。そして高い知識と技術の水準を維持しなければならない。心理専門職の有資格者になることは、専門家としてのスタートラインに立つことであり、そこからの生涯学習と実践が重要である。保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働などの領域で、心理専門職の貢献が求められている。心の健康の保持・増進に寄与する心理専門職養成が、心理系の学部や大学院を有する大学の使命となっている。50 年前にはなかった心理学部も設置されるようになり、心理学を専攻する学生も増加した。物質的な豊かさだけでなく、心の豊かさも重要であり、心理専門職への国民の期待も大である。

---

The era of "Kokoro (Minds)"

Now, what are expected to psychological professionals?

IMURA, Osamu

Nara University

---